

シニアネットワーク連絡会セッション

対話10年の報告と新しい方式について

Reports of the 10-year steps and the new trial on dialogue between students and seniors

**(3) 一般学生が原子力を巡る世代間対話に
魅力を感じるためにシニアは如何にすべきか**

(3) How to attract non-nuclear course students to the discussion on nuclear energy with seniors

*矢野 亮太¹¹学生連絡会

抄録 シニアネットワーク主催の対話会に一般学生を如何に呼び寄せるか、これまでのイベント運営経験を基に考え、今後の対話会運営のヒントを探っていく。

キーワード：世代間対話**1. 緒言**

多くの学生をイベントに呼び込むには、以下の4点が肝要であることが、これまでのイベント経験から分かっている。

1. 経済的理由や機会がなくて滅多に経験できないことができる. ex) 発電サイトや実験施設のツアーなど
2. 知り合いたいタイプの友だちができる ex) 各種交流会など
3. 興味関心のある分野の大家の話を聞くことができる ex) 原産年次大会、秋のシニア対話会など
4. 実利的なメリットがある(就活に役立ちそうな縁故ができる等) ex) YGN 対話会など

どのような学生が来るかは、1., 3.のような志向によって変わってくる。学生とシニアとの対話に一般学生を呼ぶには、これらについての考察を深めた上で、イベントを設定していく必要がある。

2. 学生の志向

一般に、学生には様々な種類のイベントの誘いが舞い降りて来る。それは同じ学生からのものもとり、新卒社会人からのものや大きな組織主催のものなど多岐に亘る。そういった様々な誘いの中で、原子力についてしかもシニアとの対話会に参加してもらうためには、シニアの強みを学生の志向に適合させる必要がある。

一般に、「若者は期待を買われ、中年は実力を買われ、老人は経験を買われる」と言われることがある。つまり、シニアの持つ最大の強みは積み上げてきた経験である。原子力の黎明期から、スリーマイルやチェルノブイリ、福島を経て、原子力業界の空気がどう変わってきたか、社会との関わり方がどう変わっていったか、そのようなことについて実感を持って語ることでできる世代はシニアのみである。

ここで忘れてはならないことは、そもそも学生、特に原子力を専攻しない学生は、原子力自体の歴史に興味が薄いと考えられることである。ではどのようにして、シニアネットワークのメンバーのもつ経験を一般化し、「歴史」にして語るかが課題となつてこよう。

3. 結論

シニアの強みである過去の経験を一般化した「歴史」にしてプレゼンテーションすることがこれからの課題であり、その点について会場で議論を行っていく。

* Ryota Yano ¹

¹ AESJ student network